キャラクター名
風凪 祝(カザナギ ホウリ)

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー サラマンダー	ワークス	不良高校生	カヴァー	不良
オプショナル		年齢	16	性別	女性
覚醒	無知	衝動	自傷	初期侵食率	31 %
出自	兄弟	経験	トラウマ	邂逅	秘密

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	1	0	2		7
感覚	0	0	0	1		1
精神	2	0	0			2
社会	2	0	0			2

HP	36
行動値	4
(非装備時)	4
戦闘移動	9
全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	7		射撃			ＲＣ			交渉		
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転：	2		芸術：			知識：			情報 :裏社会	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
氷炎の剣↓100%	白兵	7r+5	6	11		作成コスト3
氷炎の剣↑100%	白兵	7r+5	6	12		作成コスト3
地獄の氷炎↓100%	白兵	7r+5	6	26		攻撃力選択/作成コスト5
地獄の氷炎↑100%	白兵	7r+5	6	30		攻撃力選択/作成コスト5

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
強化服	1				

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：情報屋	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
兄「風凪 豊」	P 尽力	N 悔悟		
母「風凪 祀」	P 庇護	N 不信感		
"ラフレシア"姫宮由里香	P 尽力	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P： 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:サラマンダー	2	2	メジャー	自身	自身	シンドローム		
効果： C値-[LV]								
氷の回廊	1	1	マイナー	至近	自身	-		
効果： 飛行状態で戦闘移動。移動距離を+[LV×2]								
氷炎の剣	5	3	マイナー	至近	自身	-		
効果： 武器作成。詳細下記								
結合粉砕	3	4	メジャー	-	-	シンドローム	ピュア	
効果： 組み合わせた判定のダイスを+[LV]。対象の装甲無視。								
炎の刃	1	2	メジャー	武器	-	〈白兵〉		
効果： 組み合わせた攻撃の攻撃力+[LV×2]								
クロスバースト	5	4	メジャー	-	-	シンドローム	80%↑	
効果： 組み合わせた攻撃の攻撃力+[LV×4]、ダイス数-2								
地獄の氷炎	5	2	マイナー	至近	自身	-	リミット	
効果： 前提:氷炎の剣。氷炎の剣の攻撃力もしくはガード値+[LV×3]								
炎の理	1							
効果： 炎出せるよ								
氷の理	1							
効果： 冷やせるよ								
不燃体	1							
効果： 熱や寒さに強いよ								
効果：								
効果：								
効果：								

真っ赤な髪と瞳が特徴的な女子高生。就学態度はあまり良くなく、しょっちゅう授業をサボって校舎裏や屋上に居る。
普段のテンションは一見ロー気味だが、熱が入り易い。話す相手に対しては良く言えばフレンドリィ。悪く言うと礼儀が足りない。
時折酷く落ち込んでいる時も有るようだが、そんな時は人知れず自傷している事が多い。

左利き

感情によって体温と髪、瞳の色が変化する。平常運転時の体温は38℃～40℃。寝起きは25℃。ハイテンションだと50℃を超える。
日常生活においては瞳はカラコン、髪はウィッグで偽装している。
髪や瞳の色については、レネゲイドウイルスの励起状態に直結しているようだが……？

ほぼ生まれついてのオーヴァード。少なくとも物心が付いた時には能力に目覚めていた。初めは熱を少し操れる程度だったが、年々力は強力になっていき、10歳の頃に事件は起きた。
父親との些細な諍いの途中で、発火。目の前で父親は火柱となり、そのまま火事へと発展。初めは衝撃と恐怖で動けなかった彼女。我に返った時には、酸欠と一酸化炭素中毒でまともに動けなくなっていた。
このまま死んでしまうのかと、意識を手放しかけた時。視界に映ったのは、自身に声をかける兄の姿。煙に巻かれ、火に焼かれながらも、必死で呼びかけてくる兄に、手を伸ばし……
気付いた時には、UGNの医務室。以前から、どうやら監視を受けていたらしい。兄の様子を聞けば、意識不明の重体で、救えるかどうかは五分らしく。
「お願い、兄さんを、助けて……！」縋ったのは、姫宮由里香。その言葉に、彼女は、にこりと笑い……
そんな、紆余曲折を経て、彼女の「今」は有る。時折UGNに協力しつつ、薄皮一枚の「日常」を生きる。未だに目覚めない、兄の、分まで。

「あいつが何故『DEEP BLUE』なんて呼ばれてるか、だって？